

ユニークな
地質系博物館
(7)

北海道 三笠市立博物館

—日本一のアンモナイト博物館—

利 光 誠 —1)

化石の中でも恐竜、三葉虫とともに人気の高いアンモナイトをふんだんに集め、展示しているのが北海道三笠市にあるこの博物館で、自他ともに認める日本一のアンモナイト博物館と言えるでしょう。国内では石炭の町として有名だった三笠市は、海外ではむしろアンモナイトを産する町として知られています。北海道の白亜紀層から産するアンモナイトは古くから横山又次郎先生、矢部久克先生などの研究を通して国際的に有名で、研究者のみならず一般の化石愛好家などを魅了してきました。

三笠市には古くからアンモナイトにとりつかれた化石愛好家が住んでいたこともあり、化石収集に関しては質量とも他を圧倒しています。また彼らの助力によりアンモナイト研究が著しく進展してきたこともあり、当地でアンモナイト博物館が設立されたことは実に意義深いことだと思います。

三笠市では、かなり昔から貴重な化石類の保存・紹介をしようという動きがありましたが、1976年に同市に分布する白亜紀層からウミトカゲ類の頭骨化石(当時は肉食恐竜か?と騒がれたことも)が産出したことが博物館設立の直接のきっかけになり、1979年に民族部門と併せて創設されました。1990年には化石部門の展示面積をほぼ倍に拡充し、化石を主とした地学関係の展示に力を注いでいます。従って、現在ではアンモナイトを中心として中生代のは虫類の骨格片などあわせて3000点ほどが広いスペースに贅沢にならべられ、その偉容を誇っています。特に第1展示室に入ってすぐに直径が1mはあろうかというアンモナイトやイノセラムス(二枚貝)や笠型の巻貝がこれみよがしに展示されているのは圧巻です(写真2)。この大アンモナイトや貝類は見学者が自由に手で触れることができます。

第1展示室の壁を隔てた反対側にもいろいろな

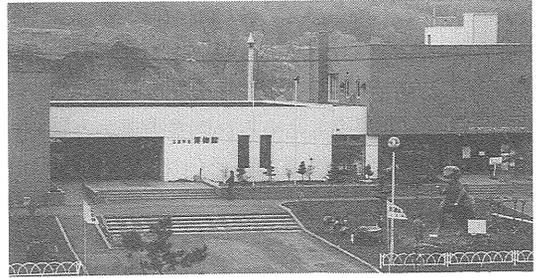


写真1 三笠市立博物館の入口付近。玄関左側建物が古生物・地質部門の展示室(第1展示室)、右側建物は民族部門の展示室。玄関の前には肉食恐竜の彫像が置かれ、三角貝砂岩などの屋外展示物も見られる。



写真2 第1展示室にならべられた大アンモナイト群。これらの化石は見学者が直接手を触れることができる。

種類のアンモナイトが展示ケースの中に収められていますが、ここでは *Nipponites* を初めとした異常巻のアンモナイトがたくさん見られ、うらやましい限りです(写真3)。いずれの化石も地元の化石愛好家が採集した標本ばかりで、クリーニングの精巧さとあわせて私達研究者もその根気強さには舌を巻いてしまいます。これらのアンモナイトについては一般の方々にも分かりやすいように解説パネルがつけられています。

第1展示室の奥には当地で産出した海生のは虫類の骨格の破片や恐竜に関するジオラマが展示されています。このコーナーにはウミガメ、クビナガリュウ、翼竜などがありますが、何といたってこの博物館の目玉はエゾミカサリュウ(ウミトカゲ類)の頭骨の化石でしょう(写真4)。この頭骨は完全なものではありませんが、日本で産出した白亜紀の海生は虫類のものとしてはずば抜けて保存の良いものです。上下の顎から生えている鋭いエナメル質の歯がキラリと光り、今にも噛みつきそうな迫力です。発見当初、地元の期待も込められ肉食恐竜かと騒がれたこともあり、博物館の玄関近くにはその復元模型も飾られています(写真1)。現在専門家によって進められている研究によれば、残念ながら恐竜ではなくウミトカゲ類であることが判明しましたが、地元の人々の期待は静まるものではありません。一昨年(1990年)の夏は中国の自貢市の博物館の協力の下に「中国恐竜と三笠アンモナイト展」を開催し、多くの入館者を集めたそうです。三笠市周辺には白亜紀の海岸線や陸地でできた地層もあり、近い将来地元の人々の期待するように恐竜の化石の発見されることも夢ではないかもしれません。

三笠市は石炭の町として栄えてきましたので、当然石炭に関する展示やその他の化石も多く展示されていますが、この博物館ではアンモナイトと海生は虫類の化石をじっくり見るだけでも充分でしょう。市としても炭鉱の閉山後の振興策の一つとしてアンモナイト博物館に期待するところが大きいとのこと。今後の地元化石愛好家らの協力によって、ますます充実した展示がなされていくことと期待しています。

三笠市立博物館では博物館活動として、子供達を対象とした野外での化石や動植物の採集・観察会や館内での化石のクリーニング教室などを行っています。また、地元化石愛好家の採集標本の特別展示会なども行い、地域と密着した博物館作りをめざしています。

なお、三笠市立博物館では定期刊行物として年報を発行しています。その他には「アンモナイト化石写真集」や「アンモナイトと三笠の自然」などの出版物もあり、博物館見学の折に購入もできます。三笠市立博物館には多くのアンモナイト模式標本もあ



写真3. 貴重な異常巻きアンモナイトが所狭しとならべられた展示ケースと解説パネル。



写真4. 第1展示室奥に展示されているエゾミカサリュウ(ウミトカゲ類)のレプリカ。長径33cm.

り、アンモナイト研究のセンターとして位置づけられるので、将来定期刊行物としてこれらの標本を対象とした研究報告や論文集の発行されることを希望して止みません。

三笠市立博物館

〒068-22 北海道三笠市幾春別錦町1丁目212番地の1

Tel (01267)6-7545, 7348

入館料: 大人 100円, 小・中学生 50円

開館時間: 9:00~17:00 (月曜日休館)

TOSHIMITSU Seiichi (1992): Geological museums in Japan 7, "Mikasa Museum".

<受付: 1991年7月23日>